

1. 事業報告

1) 寄附募集の推進

- ① 5月に生活クラブ生協より300万円（覚書に拠る）の寄付があり、運営費として活用しました。
- ② 福祉たすけあい基金への寄付は、生活クラブ生協組合員寄付13,447,000円、一般寄付97,045円の、合計13,544,045円で、予算比103.7%でした。福祉たすけあい基金に取組む組合員は、期首11,057人、3月末11,277人で、純増は220人です。
- ③ 事業指定プログラム「エラベル」は、前年度よりも寄付募集期間を1ヶ月増やし2015年12月～2016年3月に集中して取組みました。当財団はパンフレットの作成、個人や団体へのアピール活動を行い、寄付募集につとめました（寄付総額3,313,554円）
- ④ オーダーメイド寄付はありませんでした。

福祉たすけあい基金寄付金額

月	組合員	一般	合計
4月	1,102,900	81,600	1,184,500
5月	1,107,000		1,107,000
6月	1,098,100	1,200	1,099,300
7月	1,107,100	3,445	1,110,545
8月	1,106,600	2,400	1,109,000
9月	1,138,000	4,800	1,142,800
10月	1,129,500		1,129,500
11月	1,141,800		1,141,800
12月	1,128,400		1,128,400
1月	1,134,900		1,134,900
2月	1,127,300	2,400	1,129,700
3月	1,125,400	1,200	1,126,600
合計	13,447,000	97,045	13,544,045

2) 助成事業

- ① 第3期福祉たすけあい基金（選考4月・助成5月）、第4期福祉たすけあい基金（選考7月・助成8月）、第5期福祉たすけあい基金スタート助成（選考・助成3月）の計3回の助成を行いました。第5期に関しては、活動歴3年未満、直近の事業収入300万円未満の活動歴の浅いアソシエーション団体に対するスタートアップ助成としました。
- ② 全労済によるオーダーメイドプログラム「子どもいきいき助成」の選考・助成を5月に行い、計9団体へ100万円の助成を行いました。
- ③ 第2期事業指定プログラム「エラベル」は、5団体からの応募があり、プレゼン方式で選考を行った結果、5団体全てを登録団体としました。寄付募集開始に合わせ12月5日にキックオフ集会を開催し、12月1日～2016年3月20日に寄付募集を行いました。

登録団体が活発な活動をすすめたこと、また第1期の寄付者に加えて新たな寄付者の広がりをつくれたことにより、3団体が目標金額を達成し、5団体全体の目標金額に限っては310万円の目標に対して330万円（達成率107%）の寄付がありました。

※各団体の寄付金詳細は以下です。

団体名	目標金額	寄付額 (財団手数料除く)	寄付者 人数	達成率
エンパワメント神奈川	1,200,000	638,095	86	53%
ソーシャルコーディネートかながわ	200,000	205,700	30	103%
フェアスタート	300,000	459,850	73	153%
ミニシティ・プラス	400,000	279,309	59	69%
企) ワーコレ・キャリア	1,000,000	1,730,600	375	173%
合計	3,100,000	3,313,554	623	107%

④ 助成事業に関する広報活動

- ・ 第4期、第5期の福祉たすけあい基金募集チラシを作成し、神奈川県内の市民活動サポートセンター37か所に配架の手配をしたほか、市民基金関係団体・個人にチラシ配布を行いました。
- ・ 神奈川県のNPO情報サイトの「KaNaPioステーション」、公益事業コミュニティサイトのCANPANに助成情報の掲載依頼を行いました。
- ・ 第2期エラベルの寄付募集活動のためのツールとして寄付カタログを4000部作成し、活用をすすめました。

- ⑤ 6月に福祉たすけあい基金贈呈式(第2期・3期助成団体)を新横浜オルタナティブ生活館で開催し、助成した団体21団体と、役員・評議員・寄付者等約80名が参加しました。また1月に第4期助成団体の贈呈式をオルタナティブ生活館で開催しました。伊藤宏一氏(千葉商科大教授)の講演『「懐かしく新しい未来」に向かう共有経済とお金の廻し方』を開催しました。助成12団体と関係者・寄付者55名が参加しました。

3) 広報発行事業

- ① 第2期・3期福祉たすけあい基金の助成団体を掲載したブックレット『福祉たすけあい基金B○○K』を6月に作成し、関係者に配布しました。また子どもいきいき助成の助成団体を紹介したブックレットを作成し関係者に配布しました。第4期福祉たすけあい基金の助成団体紹介として『福祉たすけあい基金Book(第4期)』を2016年1月に作成・配布しました。

- ② ブックレットの発行部数は以下の通りです。

『福祉たすけあい基金B○○K(2期・3期)』・・・・・・500部

『子どもいきいき助成・助成団体B○○K』・・・・・・100部

『福祉たすけあい基金B○○K(4期)』・・・・・・500部

- ③ 全組合員を対象に『福祉たすけあい基金レポート2015』を配布しました。レポートでは、福祉たすけあい基金による助成のしくみや第1期～4期の全助成団体の団体名・活動内容・助成金額の報告を行いました。

4) 講座・研修事業

- ① 講座・研修事業として「市民活動お役立ち講座」を開催しました。福祉たすけあい基金スタート助成説明会と合同で11月12日に開催しました。15団体21名の参加がありました。

講座内容・講師は以下の通りです。

講座名	講師
市民事業のマネジメント～事例をもとに～	河村尚子さん／市民事業創出・支援室
市民バンクによる融資の活用～女性・市民コミュニティバンクのしくみと融資事例	向田映子さん／WCA理事長

5) 財団運営に関する小委員会の設置

- ① 財団運営の基本である寄付者の拡大や財団ミッションの分かりやすい表現の検討等をテーマに、理事会のもとに意思ある理事の参画による小委員会を設置し、寄付者の拡大から検討を始めました。

- ② 寄付拡大小委員会答申は3回の委員会討議を経て、11月理事会に答申を行いました。今後の寄付拡大政策として確認した点は、主に以下2点です。

- i. 福祉たすけあい基金は生活クラブ内部拡大をメインとし、テーマに基づく新たな寄付拡大を外部拡大の主な手法とする。
- ii. 新たな寄付プログラムのテーマは「子ども・若者」とし、具体化に向けて検討チームを発足する。

12月に新プログラムの検討チームを発足しました。

- ③ 検討チームでは、3年間の助成実績を踏まえ、市民基金の目指すもの・ミッションを明確にして、外部の個人・団体・企業への共感を広げ、寄付造成を図っていくべきであるという方向性を確認し、新たな寄付プログラムの創設については見送るという結論を出しました。

また、2016年度の重点活動テーマとして「子ども・若者の貧困に立ち向かう市民活動支援」に取り組むことを通して、寄付造成をすすめていくこととしました。

6) 福祉たすけあい基金取組組合員全員への領収書・市民基金情報の配布

- ・ 福祉たすけあい基金取組組合員11,300人（班個組合員8,041人、デポ組合員3,259人）全員に、領収書及び基金情報を配布しました。班個組合員には配達便での配布、デポ組合員には郵送としました。配布物作成・封入外注費・郵送費等を含め120万円を予算化、実行しました。
- ・ 市民基金の情報をダイレクトメール方式で届けることで、おおぜいの組合員の市民基金に対する認知度や活動への共感が高まったと総括します。

- ・ エラベル寄付の紹介を行ったところ、14名から275,400円の寄付申し出がありました。また、福祉たすけあい基金への追加寄付が、2名から6,000円寄せられました。

2. 法人運営

1) 機関会議運営

①理事会

- ・ 定例理事会を5月、8月、9月、11月、1月、3月に開催しました。各理事会の主な議決事項は以下の通りです。

	主な議決事項
第1回（5月度理事会） 5月16日開催	①2015年定時評議員会議案の決定 ②第3期福祉たすけあい基金並びに子どもいきいき助成の選考結果の承認 ③「助成事業の選考に関する規程」の一部改訂並びに選考委員の選任
臨時理事会 6月6日開催	①理事長の選任並びに副理事長・専務理事の選任
第2回（7月度理事会） 8月1日開催	①第4期福祉たすけあい基金の選考結果の承認 ②基金・財団強化のための小委員会設置の承認 ③2015年度講座事業の開催方針
第3回（9月度理事会） 9月12日開催	①寄付拡大に向けた政策討議 ②第5期福祉たすけあい基金（スタート助成）の募集要項決定
第4回（11月度理事会） 11月14日開催	①上期事業報告及び上期決算の承認 * 監査報告 ②寄付拡大に向けた政策の承認 ③第2期事業指定プログラム「エラベル」登録団体の選考報告と実施計画の承認 ④福祉たすけあい基金取組組合員への領収書発行等に係る予算の承認 ⑤マイナンバー取り扱い規程の承認
第5回（1月度理事会） 1月16日開催	①2016年度活動方針案第一次討議 ②2015年度第1回臨時評議員会開催計画の承認
第6回（3月度理事会） 3月12日開催	①2015年度臨時評議員会議案の決定 ・ 2016年度事業計画案の決定 ・ 2016年度収支予算、資金調達及び設備投資計画の見込みの決定 ②2016年度定時評議員会の開催計画 ③新たな寄付プログラム具体化検討チーム答申の承認 ④第5期福祉たすけあい基金助成結果の承認 ⑤第6期福祉たすけあい基金募集要項の初認

②定時評議員会・臨時評議員会の開催

定時評議員会	◇開催日時 : 2015年6月6日(土) 13:00~14:00 ◇評議員出席状況 : 評議員17名出席(26名中) ◇以下の議案を全て承認 ・2014年度事業報告・決算報告 ・評議員、理事の補充選挙
臨時評議員会	◇開催日時 : 2016年3月19日(土) 10:00~11:00 ◇評議員出席状況 : 評議員16名出席(26名中) ◇以下の議案を全て承認 ・2016年度事業計画の承認 ・2016年度収支予算案の承認 ・資金調達及び設備投資の見込みの承認

- ・ 6月6日に定時評議員会を開催し、2014年度事業報告・決算書を承認しました。また、理事改選期のため新理事の選任、辞任の申し出があった評議員3名の補充選出を決議しました。
- ・ 評議員会では、第1期助成指定プログラム「エラベル」の寄付活動に対する質問他、多くの意見が出され、活発な評議員会となりました。

③定例理事会、評議員会の参加状況は以下の通りです。

- ・ 理事会参加状況

	5月度	臨時(6月)	7月度	9月度	11月度	1月度	3月度
理事	17/22	16/22	16/22	14/22	16/22	16/22	16/22
監事	3/3	2/3	1/3	3/3	2/3	3/3	1/3

- ・ 評議員会参加状況

	定時評議員会	臨時評議員会
評議員会	17/26	16/26

2) マイクロクレジット研究会の設置

- ① 県内の非営利協同組織・団体に呼びかけて、理事会のもとにマイクロクレジット研究会を設置しました。研究会には協同組合組織・労働団体・市民事業団体など18団体26名が参加し、9月17日に発足集会・第1回研究会を開催しました。
- ② 3月までに7回の研究会を開催しています。研究会では生活困窮者支援に係わる市民団体の活動、協同組合・労働組合・市民団体の連携事例を共有してきています。
- ③ 研究会は2016年度上期まで開催し、まとめ(提言)を取りまとめていきます。

3) 関連団体との連携

- ①生活クラブ生協

- ・ 9月にさがみ生活クラブ生協からの依頼をうけ、荻原副理事長が福祉たすけあい基金への賛同者を増やすために講演を行いました。

②行政

- ・ 7月に神奈川県NPO協働推進課を訪問し、今後の連携等について意見交換を行いました。
- ・ 8月に逗子市市民交流センター主催の講座に講師として招かれ、かながわ生き生き市民基金の活動及び助成プログラムの説明を行いました。
- ・ 9月に開催された神奈川県主催のNPO推進課主催の認定NPO学習会にスピーカーとして事務局が参加し、助成事業の紹介をしました。

③他の市民ファンド

- ・ 全国にある13の市民ファンド・コミュニティ財団から構成される、一般社団法人全国コミュニティ財団協会に加盟しました。

④その他

- ・ オーダーメイドプログラム「子どもいきいき助成」の寄付者である全労済神奈川県本部に表敬訪問を行い、感謝状及び『子どもいきいき助成・助成団体BOOK』を贈呈しました。